



これから加盟したい 国家様へ

環太平洋君主国同盟への加盟をしたいみなさまへの簡単な説明

環太平洋君主国同盟とは？

環 太平洋君主国同盟は設立意義にある通り「環太平洋の伝統的諸君主国を、諸列強、既存機構による搾取及び支配から保護すること」を目的としている国家です。

当機構は仮想敵国、機構を「環太平洋地域の君主制を脅かしかねない国家、イデオロギー及び既存機構」としています。これは設立意義にもかかわることであり、当機構の本当の目的を達成するためのものです。

環太平洋君主国同盟ができた経緯は？

{機構設置の経緯}

ユーラシアからオセアニアへとまたがるオストロアジア連邦共同体が各地での行動を先鋭化させ特にもアジア地域での OFC の覇権打ち立てられていた。これにはかねてから機構設立に向けて動いていた米大陸のらずべりい連邦と当時の OFC 加盟国である十洲連合王国は“伝統的君主国”の枠組みのもと、環太平洋地域の国家へ加盟打診を行った。これには東アジア地域の東北連邦、極東蝦夷共和国、北太平洋連合皇国、中南米の舞羅連邦、オセアニアの朝日皇国が応じた。統一歴 135 年ごろから加盟予定国での協議が始まり、翌 136 年には太平洋地域の安定のための宣言のほか各国王族による晩餐会が催された。しかし、当時東トルキスタン紛争終結に起因する中華連邦の好景気が終わリエお告げ、デフォルト宣言が行われた。これにより中華資本の比率の高い十洲連合王国やらずべりい連邦などでは銀行や企業の倒産が相次いだ。

同年、金融危機の発端となった中華連邦共和国の各省が独立、中華社会主義共和国連邦として樹立された。この新国家は以前にも増し、外洋政策をとり、宗谷海峡及び津軽海峡を利用した示威的行動が行われた。これに対し十洲連合王国と東北連邦は「津軽海峡の船舶の通行に関する十洲連合王国・東北連邦の取り決め」が結ばれ海峡内の船舶航行制限がかかった。

{利尻島砲撃事件と機構の設立}

取り決めが行われた数日後 5 月 12 日、十洲連合王国の旭川で東北連邦空軍が友好イベントである航空ショーが行われ、各国大使も観閲を行った。しかしこれには中華側が「北海道地域における東北連邦空軍の不当で危険な軍事的威嚇飛行を即座に中止するように求める。中止が行われなかった場合、我々は直ちに実効的処置に踏み切ることを警告する」という内容の発表を行うも十洲側の

「あくまで両国友好を示す平和的イベントとしての”航空ショー”」

という考えを発表し、航空ショーを決行した。中華側はこれに対して利尻島への砲撃を開始し、その後 2 時間程度で戦闘が終了した。

当初、事態悪化を読めなかった各国政府は事件の発生を受けるとともに、数日前に締結されたシルカグレード包括軍事協定に対抗するために会議を急遽開催。議場では早急な機構設置をという意見が多く、結果翌々日 5 月 14 日には共同宣言を行い正式に「環太平洋君主国同盟」が発足した。

現在の加盟国は？

現在の加盟国は以下の表をご覧ください。

国名	代表
十洲連合王国	yemishi0812
東北連邦	hakua0418
極東蝦夷共和国	nekorozii
北太平洋連合皇国	yukinami0501
舞羅連邦	esekagaku
朝日皇国	huyutuki
らずべりい連邦	takkun613
ドラコニック帝国	harumaki
カーライル連合王国	Dr.L

国際関係は？

意義に書いてある通りの関係です。それ以外の国家、機構等とは現時点では仮想敵国ではありませんし、友好的でないということもなく通常の関係があります。

組織構成は？

現在組織構成については組織中です。くわしくは機構事務担当国「十洲連合王国」にお問い合わせください。

機構軍は？

機構軍は加盟国同士の距離が離れているため設置されていませんが、相互駐屯が可能ですので、軍事的に強固に協力したい国家同士で相互駐屯してください。

加盟について

正規加盟国

条件は「環太平洋地域に存在する君主制、立憲君主制等の君主国家」です。

正規加盟国は相互駐屯等の権利を与えられます。

オブザーバー

条件は「君主制、立憲君主制等の仮想敵対機構に加盟していない国家」です。

オブザーバーは会議等に出席でき、意見を述べるすることができます。(※議決権はありません)

協力国

条件は「君主制、立憲君主制等の仮想敵対機構に加盟していない国家」です。

協力国は会議などの内容を知ることができ、相互支援などの権利を与えられます。